

第6学年2組 総合的な学習の時間指導案

場 所 南校舎多目的ルーム

授業者 T1 柴田 淳平

T2 矢内 陽子

1 単元名 私は「福島をもっと盛り上げ隊！」

2 単元の目標

自分たちの生活と福島市の街づくりや地域活性化の関わりについて調べることを通して、問題解決のためには自分たち自身が福島市を盛り上げる取組みに関わっていく必要があることを理解し、問題解決のために自ら問いを見だし、自分にできる地域活性化の取組を考え、自身の生活の中で自分にできることに取り組もうとする。

3 指導にあたって

(1) 教材について

人口戦略会議による「地方自治体の『持続可能性』（2024年4月更新）」では、福島市は「消滅可能性自治体」からは免れ「その他」に分類された。しかし、若年女性人口変化率はマイナス44.8%と危機的な状態であり、福島市としても地域活性化への早急な対策が求められている。また、大東建託の「街の住みこちランキング」では、福島市への満足度が59.6点（100点：満足50点：どちらでもない0点：不満足）であり、市民自体も自分の住む福島市の魅力を十分に実感できていない様子もうかがえる。そこで福島市では、「ふくがましまし、ふくしまし。」のキャッチコピーのもと、「まちなかの暮らしも自然が近い暮らしも選ぶことができる福島市」として移住を呼びかけている。「福島市をもっと盛り上げる活動」を追究することは、自分たちが住む福島市は、まちなかの暮らしと自然が近い暮らしができる地域であることを改めて実感し、新たな魅力や福島市の活性化のために取り組んでいる人々や組織の存在に気づき、社会の一員として福島市を盛り立てていこうという気持ちを高めることができる教材であると考えられる。また、子どもたちは、街づくりや地域活性化に関わろうとする活動に取り組むことを通して、本校が育成を目指す「九つの力」を発揮し、「ひとみ輝く学び」を具現できるものと考えられる。

(2) 児童について

福島市のシンボルである信夫山。公園開園150周年記念イベントの一つである、信夫山デジタルスタンプラリーに参加した子どもたちは、「福島市は力を入れて信夫山を盛り上げようとしている。信夫山に人を呼ぼうと頑張っている。」ということをつまえてきた。しかし「信夫山をPRしただけでは多くの人には来ないと思う。」や「いわき市や会津若松市の方が有名なものがある。」という友達の発言をきっかけに、「どうしたら福島市に多くの人に来るようになるのか。」ということについて考えることとなった。「そもそも人を呼び込める魅力はあるのか。」という疑問からスタートした子どもたちは「福島の魅力はほとんどない。」という思いが先行し、福島市の魅力としてどのようなものがあるのかを実感していない様子であった。様々な視点から福島市の魅力について十分に話し合ったことで、子ども一人一人が「福島をもっと盛り上げ隊！」として、「食べ物」「歴史」「水」「イベント」「景色」「信夫山」など9つの視点から、自分たちが福島市の魅力を見出し、福島市を盛り上げる活動をしていきたいという思いをもちはじめた。その一方、「まだ福島市の魅力が分からない。」ため、福島市を盛り上げるための視点を焦点化しきれていない子どもも複数名いる。

(3) 指導について

「福島をもっと盛り上げ隊！」として、子どもたちの興味・関心に基づいて9つの小グループを編成する。そこでは、「多くの人に福島市に来てもらう。」という自分たちの目標の基、各グループで探究活動に取り組むこととした。学習計画を立てる際には、各グループの学習活動を可視化することができるよう、「福島盛り上げプラン」を活用する。「福島盛り上げプラン」には、月・学期・年間の時数に基づき、1単位時間ごとの学習内容（何のために、いつ、どこで、何を、どのように等）を付箋に記していく。さらには、それを基に自分たちの学習活動を振り返ることで、必要に応じて学習計画を見直すことができるようにしていく。

第2小單元における、「調査活動1」ではまず、グループごとに自分たちの思いや考えに基づき、調査活動を実施した。実際の調査活動では、福島市の魅力や課題を確かめるため、計画に沿って福島駅前や学区内においてアンケート調査を行ったり、信夫山において現地調査を行ったりしてきた。本時では、「調査活動1」において分かったこと、分析したことなどを全体で共有する場を設けていく。さらに、自分たちの目標を基に自身の活動を振り返らせることで、自分たちの調査活動の在り方を見直し、今後の活動の見通しを具体的にもつことができるようにしていく。なお、今後の「調査活動2及び3」においては、福島市役所観光課や水道課、地域の桃農家、ふくしま未来研究会など、福島の魅力を発信するために力を尽くしている方々の助言、助力を得る場も設けながら、子どもたち自身が地域活性化の担い手となるような取組を促していきたい。

4 単元の計画（単元構想）（総時数 70 時間）

（1）単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	福島市の街づくりや地域活性化に関する探究的な学習の過程において、既存の知識及び技能を活用し、目的や対象に応じて適切な調査活動を実施するとともに、福島市の地域活性化は自分の生活と関わりがあることを理解している。	自分の生活と福島市の街づくりや地域活性化の関わりについて、自ら問いを見だし、見通しをもって必要な情報を収集、累積するとともに、他者と共に多面的・多角的に考えながら最適解を創り上げ、その考えを相手や目的に応じて表現している。	自分の生活と街づくりや地域活性化の関わりについて自ら見いだした問いを粘り強く追究し、探究活動を通して自他のよさを生かしながら、共に学び合うとともに、地域活性化に向けて自分にできることに取り組もうとしている。
小単元の評価規準	<p>① 福島市の街づくりや地域活性化は自分の生活と関わりがあることをこれまでの経験や既存の知識と関連付けながら理解している。</p> <p>② 既存の知識及び技能を活用し自分の生活と街づくりや市域活性化について調査する活動を目的や対象に応じて適切に実施している。</p> <p>③ 福島市の魅力についての理解は自分の生活と街づくりや市域活性化の関係を探究的に学んだ成果であることに気付いている。</p>	<p>① 自分の生活と福島市の街づくりや地域活性化との関わりについて自ら問いを見だし、解決の方法や手順などの見通しをもっている。</p> <p>② 取組に必要な情報を効率的に収集する手順を選択し収集した情報を種類に合わせて蓄積している。</p> <p>③ 地域活性化に向け他者と共に多面的・多角的に考え、関係や傾向を明確にしたり確かな理由や根拠を考えたりして最適解を創っている。</p> <p>④ 地域活性化について創り上げた最適解に対する自らの考えを相手や目的に応じて表現している。</p>	<p>① 自分の生活と街づくりや地域活性化について自ら見いだした問いを粘り強く追究し、自らの学びを振り返り、探究活動に取り組もうとしている。</p> <p>② 地域活性化に向けた探究活動を通して、自他の意見や考えのよさを生かしながら共に学び合おうとしている。</p> <p>③ 地域活性化に向けて自分の生活の中で自分にできることに取り組もうとしている。</p>

（2）指導と評価の計画

小単元名（時間）	学習活動（時間）	知	思	態
福島市の街づくりはこれでいいのか？（13）	<ul style="list-style-type: none"> 信夫山散策、信夫山デジタルスタンプラリーを実施する。（5） 今の福島市の街づくりについて自分の考えをもつ。（4） 学習の見通しをもち、おおよその学習計画を立てる。（4） 	①	①	①
結成！「福島をもっと盛り上げ隊」 福島市の魅力を発見しよう！（35）	<p>【調査活動1】（11）</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査活動1についての細かな計画を立てる。 福島市の魅力についてアンケート調査する。 現地調査活動の計画を立て、調査活動を行う。等 調査活動1を振り返り、自分の考えをまとめる。 調査活動1で分かったこと、考えたことなどを共有するとともに、今後の学習活動の見通しを具体的にもつ。<u>（本時）</u> 学習計画の見直しを図る。 <p>【調査活動2及び3】</p> <p>※各グループの実態に応じて実施。（12・12）</p> <p>・<u>福島市の活性化に向けて力を尽くしている方の話を聞く。等（福島市役所、農家、青年会議所、福島物産館、地域のお店等）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 調査活動2及び3についての細かな計画を立てる。 現地調査活動の計画を立て、調査活動を行う。 調査活動2及び3を振り返り、自分の考えをまとめる。 調査活動2及び3で分かったこと、考えたことなどを共有する。 学習計画の見直しを図る。 	②	① ② ③ ③ ①	① ②
出動！「福島をもっと盛り上げ隊」（22）	<ul style="list-style-type: none"> 各テーマに合わせて福島市に人を呼ぶための活動を行う。（18） （わらじ音頭披露、フォト展示会、歴史劇の発表など） これまでの活動を振り返り、自分の考えをまとめる。（4） 	② ③	③ ④	③ ③

5 本時の計画

(1) 本時のねらい

「調査活動1」において、分かったことや気づいたことを共有することを通して、自分たちの調査活動の在り方を見直し、今後の学習活動の見通しを具体的にもつことができる。

(2) 学びを深める要素「教師の見取りと子ども同士の関わりを支える働きかけ」

見取りを生かした「問い返し」や「意図的指名」によって、子ども自身が自分たちの調査活動の在り方について考えることができる教師の働きかけ

本時では、まず「調査活動1」において、分かったことや気づいたことをもとに、福島市に多くの人を呼び込むことができそうな魅力や課題について話し合う。その際、教師は子どもの考えを「聞く姿勢」を大切にしながら、前時までの見取りを生かして意図的指名をしたり、ねらいにつながる調査活動結果の発言を促したりすることで、様々な考えを引き出すことができるようにする。

自分たちの取組について考える場面では、「その活動をすれば本当に福島市に人はたくさん来るようになるのか。」という問いかけをすることで、自分たちが取組もうとしている活動が本当に福島市に人を呼び込むことにつながるか考えることができるようにする。また、福島市を盛り上げるために本気になって取り組んでいる人と出会うことができたグループを取り上げたり、必要に応じて「見つけて！福島動画コンテスト」のPR動画や各種広報パンフレットを提示したりすることを通して、福島市を盛り上げるために本気になって取り組んでいる人がいるということを確認させ、自分たちの調査活動の在り方を見直し、今後の学習活動の見通しを具体的にもつことができるようにする。

(3) 指導過程

学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ◆本時の重点 ※評価
1 「調査結果1」を振り返り、本時のめあてをもつ。	5分	○ 「福島市の魅力を発信し、多くの人を福島市に呼び込むため」という調査活動の目的を確認することで、本時のめあてをもつことができるようにする。
④ 多くの人を呼び込める魅力はあったのか。		
2 「調査活動1」で考えたことをグループごとにまとめる。 ・ 歴史グループ ・ 景色グループ ・ イベント、お祭りグループ ・ 水（水道水）グループ ・ 食べ物グループ ・ 信夫山グループ ・ いいところ、課題発見グループ ・ いいところ市内から発見グループ ・ いいところ市外から発見グループ	10分	○ 各グループの成果と課題を明確にするために、分かったことや分析したことを四つ切り画用紙に簡潔にまとめさせる。 ○ T2は、成果と課題を簡潔にまとめることができるよう各グループに助言をする。その際、意図的指名につながる子どもの意見を把握しておく。 ○ T1は、各グループに助言をするとともに成果と課題が書かれた画用紙をグルーピングしながら黒板に掲示する。
3 各グループの魅力や課題をもとに、福島市に人を呼び込むことができそうな自分たちの取組について考える。 【呼び込めることができる魅力】 ・ やはり福島市の桃は自慢できる。 ・ 福島市の水道水はモンドセレクションに10年連続受賞している。 ・ わらじ祭りが大きなイベント。祭り本気委員会が取り組んでいる。 ・ 信夫山の展望台から見た景色はどの方角からもきれいで魅力的。 【課題】 ・ 市民は福島市の魅力をあまり感じていない人が多いことが分かった。 ・ 福島市にはごみ問題や駅前の再開発などの課題を抱えている。 ・ 観光のために福島に来るといふ県外の人ほとんどいなかった。	25分	◆ T1は、「その活動をすれば本当に福島市に人はたくさん来るようになるのか。」と問いかけをすることで、自分たちが取組もうとしている活動が本当に福島市に人を呼び込むことにつながるかを考えることができるようにする。 ◆ T2は、見取りを生かして意図的指名をしたり、他のグループの調査結果と比較できる発言を促したりすることで、様々な考えを引き出すことができるようにする。 ◆ 福島市を盛り上げるために本気になって取り組んでいる人と出会うことができたグループを取り上げたり、必要に応じて「見つけて！福島動画コンテスト」のPR動画や各種広報パンフレットを提示したりすることで、福島市を盛り上げるために本気になって取り組んでいる人がいるということを確認させることができるようにする。 ※ 調査活動の在り方を見直し、今後の学習活動の見通しを具体的にもっている。 （発言・ワークシート）
4 次時以降の見通しをもつ。 ・ 「調査活動2」に向けて、どのようなことをしていきたいのか自分の考えをもつ。	5分	○ 自分の考えをまとめることで、次時以降の活動への見通しをもつ共に今後の学習への思いを高めることができるようにする。

